

(一社)日本床矯正研究会 会長挨拶

私はこの夏に四国のお遍路さんに行くつもりです。

なぜ、そのような気になったのかは解りませんが、年齢のせいでしょう。お遍路の総距離は約1200キロあるそうです。本来ならば同行二人で歩くのが基本ですが、今は一括でなく、区間を分散する方法もあるそうです。また歩行ではなく、バスやタクシーを利用する方法もあるみたいです。今回私はタクシーで一気に回る予定です。歩かなければ御利益はないと言う人もいますが、ともかくやってみなければ話にならないと思います。各札所でお経を先達と唱えるそうですが、お経とは無縁の生活をしていましたから、困った問題です。

基本は般若心経でしょう。これまたよく解りません。

般若心経は「空」の思想が基本だそうです。色不異空。空不異色。色即是空。空即是色。だそうです。

「空」とは何も考えないこと。「色」とは実態か?

私は凡人ですから、勝手に解釈しています。

床矯正治療に関して「空」ならば淡々と自分の床矯正治療を遂行していればよい。床矯正研究会を立ち上げたことが「色」なのでしょうね。

床矯正治療に関して、床矯正研究会・(一社)日本床矯正研究会を通じて、四半世紀の症例を含めて指導をしてみたい。

治療方針としては以下の内容をコンセンサスとして処置してまいりました。基本的な私の考え方は

- ①自分の家族に処置しない内容を患者さんには処置しない。
- ②治療装置にはできるだけ、身近な装置・安価な装置を選択する。



会員の先生方はこの二つのコンセンサスに共感され、当初、自分のお子さんが不正咬合を発症し、従来の治療法ではなく、会の意見や方針に基づいて入会したいと希望された先生が多かったと記憶しています。

綺麗な乳歯列が、なぜ永久歯列になると不正咬合になるのか?乳歯の歯冠幅径の合計と永久歯の歯冠幅径の合計の大きさの差から生じます。前歯は上顎で7mm、下顎では5mm永久歯の歯冠幅径が大きいためです。

綺麗な乳歯の歯並びは永久歯の叢生を発症する予備軍です。これを保護者に伝えるのが私たち臨床医の勤めです。私たちは3歳の幼児から叢生になる可能性を予知できます。この問題を提唱したいと思っています。

3歳の前歯部に発育空隙が発現していなければ、前歯部に必ず叢生は発症します。その時に何を診査すべきでしょうか?それは下顎前歯の切端の発育葉の有無です。発育葉があれば咬断運動は行われておらず、歯列は育成されません。

ここで従来の抜歯矯正に疑問が生じます。前歯の叢生の原因は7mmです。抜歯矯正は左右の小白歯を抜歯します。小白歯の歯冠幅径は7mmですから、左右で14mmのスペースが得られます。前歯部の7mmのスペースを得るために必要以上に14mmのスペースを作ることに疑問を感じます。これらのことから昨年、患者さん向けに“0歳からのうち矯正”の本を出筆しました。

来年には患者さん向けに“0歳からのうち矯正”の漫画本を、そして私ども歯科医師が“0歳からのうち矯正”に対応する矯正知識をのべた本を理事会の承認のもと会員へ配布する予定です。

会長
鈴木設矢
SETSUYA SUZUKI



理事長就任のご挨拶

会員の皆様こんにちは。

日本床矯正研究会会員の皆さんこんにちは。しんくら歯科医院の藤井秀紀です。

床矯正研究会の法人化にあたり副理事長として運営に参画し、全国大会、各地方フォーラムを始めとして会の発展に努めておりましたが、理事長花田真也先生のご退任にあたり花田先生からのご指名と理事会承認をもって理事長職を引き継ぐこととなりました。

思えば鈴木先生のご講演を受講し床矯正に取り組んで20年ほどたちます。その間床矯正のメソッドもどんどん改良され、矯正に取り組んだ経験がない先生方にもわかりやすく、効果が出やすいものへとブラッシュアップされ体系が整ってきましたが、一番大きな変化は創設者の鈴木設矢先生の私的勉強会であった床矯正研究会が法人化されて組織運営となったことです。

これによって会の運営する各種セミナーだけでなくSNSでの症例相談、スタンダードコース、地区フォーラム、全国大会等といった様々な学びの場を提供できるようになり、会員の皆様により床矯正へ取り組むにあたっての情報提供をできるようになりました。

これはひとえに創設者である鈴木設矢会長の「**床矯正を文化に!**」との想いを具現化しようとされた前理事長花田真也先生の熱意とご尽力の成果に他なりません。

小児期の歯列不正は床矯正により小児期に改善されているのが当たり前という社会を実現するために、全国に会員が増えて、全国で実践されていく事を理事、評議員一丸となって支援していきたいと考えております。



理事長 **藤井秀紀**
HIDEKI FUJII



小児矯正への想い

私は成人の全顎の問題を包括した総合治療も行っておりますが複雑な口腔崩壊の症例ほとんどに歯の位置異常や咬合の異常がみとめられます。成長期に歯列・咬合の異常を放置したことにより問題が複雑化して悪化していったのは明らかです。

ですので予防歯科的にみても成長途中の小児期に歯列咬合を整え、BFT(Bio Functional Therapy)により正しい成長パターンに戻していく事で健全な歯列咬合を獲得できれば、成人になってからのう蝕、歯周病、咬合崩壊を高い確率で防ぐことができると強く強く実感しております。ですので小児期にBFTを含む小児矯正で健全歯列と顎骨を育てるのが当たり前の社会にしていきたいのです。

日本床矯正研究会の今後の活動について

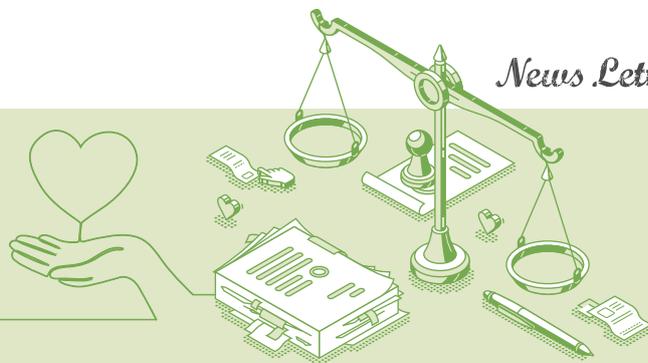
1 会員の先生方への支援:現在の会員の動向を調べてみると、会員にはなっているがあまり床矯正治療は行っていない先生が少なからずおられるようです。そのような先生の実践を妨げている要因を調査し、実践が行われるよう知識や院内に仕組みを構築していく支援、および取り組んでいる際に出くわす困りごとの解決支援をオンラインや地方フォーラムで行っていきます。

2 エビデンスの蓄積:小児矯正やBFTはその効果に関する論文が少なく研究が進んでいません。しかし我々床矯正に携わった実感として大きな効果があるのは確実ですし、保険改定でも口腔機能発達不全症の検査、トレーニングに加点があったように、国の施策としても推進されています。会としてもここ何年も毎年複数名で小児歯科学会大会で床矯正関連の発表を行っております。これを継続拡大してエビデンスを増やしていくことに取り組んでいきます。

3 会員数を増やし床矯正治療を普及させる:「**床矯正を文化に!**」を実現するため、これから次代を担っていく若い世代の歯科医師にも届くような情報発信を進めて会員を増やすとともに、海外にも広めていくことにも取り組みたいと思います。

会員の皆さまにおかれましては、ぜひとも全国大会、各地フォーラムを始めとする会の活動へのご参加や床矯正治療の実践をお願いいたします。

医療機関における 『カスタマーハラスメント』



1 近ごろ「カスタマーハラスメント(CH)」という言葉が急速に広がっています。顧客(カスタマー)による、商品・サービスを提供する従業員等に対する「ハラスメント」という意味です。

同様の事象について、従来は「クレーマー」という言葉が遣われていました。これは、クレームをいう「人」に着目した言葉です。企業にとって「好ましからざる人」という意味です。他方、前号でもお話ししたとおり「ハラスメント」は、従業員等の「職場環境」に関係する言葉です。それゆえ、「クレーマー」から「CH」に変わったことには、企業にとって従業員等の人材が「財産(資産)」であり、企業が持続的に成長していくには従業員等の「職場環境」を良好なものにしなければならない、との考え方が関係しています。

加えて、「職場環境」の問題ですので、従業員等からみれば「CH」は労働災害の一種として位置づけられます。

上記の考え方は医療機関でも変わりません。医療機関が存続していくかどうかはそこで働く従業員等にかかっています。医療機関においても「CH対策」、従来の言葉でいえば「クレーム対応」が急務となっています。

2 「CH」という言葉の広がりに伴い、よく受ける質問があります。

第1は、どこからが「CH」と考えてよいのか、その境界線が分からない、というものです。たしかに、「CH」も、他の「ハラスメント」と同じで「事実」ではなく「評価」です。活字になっているものをみても、例えば「不当」要求や「執拗な」クレームのように、「CH」とされる顧客等の言動には形容詞が付されています。これは「評価」であるためです。そして、どこからが「不当」であり「執拗」であるといえるか、判断に迷うのは当然でしょう。

第2は、「CH」に毅然と対応をしなければならないことは頭では理解できるが、正直躊躇を覚える、というものです。このような心情の背景には、2つのことがあると考えられます。まず、対応をする相手方が、曲がりなりにも顧客等(医療機関では患者とその家族)であるということです。次に、医療機関としてきちんとやれていたのかという一抹の不安がよぎることで、後日やるべきことをやっていなかったと非難されないか、心配になるということでしょう。

3 私は、そもそも「CH」という言葉を遣うことが良くないのだと考えています。

我が国には「おもてなし」という文化があります。医療機関

を含めた企業と顧客等との間には、一定の契約(医療機関では診療契約)が存在します。それゆえ、企業はこの契約その他の法律で定められた義務を果たさなければなりません。ただ、それだけにはとどまりません。顧客等の満足を得るため、企業は義務とはいえない様々なサービスを行っています。これが「おもてなし」です。

そして、「CH」という言葉が教えてくれるのは、「おもてなし」にも一定の限界があるということです。企業が考える「おもてなし」を超えるものが「CH」であるのです。

4 我が国では、長年にわたって「お客様は神様です」、「顧客第一」という考え方が尊重されてきました。これらと「おもてなし」という文化が結びついた結果、「おもてなし」は「やればやっただけ良い」という風潮が生まれました。

しかし、「おもてなし」であっても従業員等によって行われるものです。それゆえ、できることには自ずから限界があります。ましてや、現在は「働き方改革」が叫ばれ、「時間外労働の上限規制」も行われています。従業員等を効率的かつ意欲的に働かせるためには、「選択と集中」、具体的には、できることを「やるべきこと」と「やっちはいけないこと」に区別をする必要があります。「やっちはいけないこと」には、具体的には、他の顧客等の迷惑となるおそれがあること、従業員等の意欲が削がれること、従業員等に過度の負担を生じさせることが含まれます。

そして、このように区別をすることができれば、「おもてなし」として「やっちはいけないこと」の範囲は「CH」と重なり合うと考えられます。

5 このように考えれば、「CH」は、企業が行うべき「おもてなし」の「補集合」であることとなります。すなわち、「CH」と考えてよい境界線は「おもてなし」の外延そのものです。「おもてなし」として「やるべきこと」が明確になっていれば、従業員等を守るために、躊躇なく毅然と対応をすることができるでしょう。

「CH」という言葉を通じて、「おもてなし」として「やるべきこと」と「やっちはいけないこと」の区別をする。先生方におかれては、直ぐにでもこのことに取り組んでください。

弁護士

宗像 雄 YU MUNAKATA

一般社団法人 日本床矯正研究会
顧問弁護士

関谷・宗像法律事務所



中四国地区 床矯正フォーラム広島

2024年3月24日(日) 広島県歯科医師会館



神人先生



坂井先生

今年も、日本床矯正研究会中四国支部主催のフォーラム広島が3月24日(日)広島県歯科医師会館で行われました。参加者は51名、会場一杯の参加者でした。

今回は、まず、新しく評議員に就任された広島市のきよはら歯科副院長 神人大輔先生に『開咬と舌癖』と題し症例発表して頂きました。前回、前々回と続けて発表していただいておりますが、しっかりと丁寧に治療されているのがわかる発表でした。下顎平面角が大きい患者さんへのアプローチ、いつも花田先生が、おっしゃっている4つのアプローチがここで活かされます。

続いて、倉敷市のしんくら歯科医院の坂井優先生です。『乳歯列期、混合歯列期初期の逆被蓋に対する筋機能矯正装置およびBFTを用いた早期治療の可能性』と題して発表してもらいました。さすが、藤井理事長の愛弟子だけあって素晴らしいプレゼンでした。

私的には、下顎前突と上唇小帯の関係はとても勉強になりました。

今回は、発表者を2名にして、ディスカッションの時間を多くしました。時間が余るかなと思いましたが、相変わらずサービス精神旺盛な花田、藤井の両指導医の解説、アドバイスがしっかりとあり、時間が足りないくらいでした。

終了後、場所を移して懇親会を行いました。20名の参加者があり、途中サプライズもあり、親睦を深めるいい機会となりました。

日々のお仕事がお忙しい中、スライド作成し予演会をしたりして発表の準備をして頂いた演者のお二人、毎月のように全国行脚しないといけない指導医のお二人、年度末でお忙しいにもかかわらず、遠方から参加頂いた参加者の皆様本当にありがとうございました。

来年もおそらく開催されます。毎回困った症例や、うまく行かない症例が出されます。こういうのが一番勉強になると思いますので今回不参加の方も是非ともご参加ください。また、広島だけでなく福岡、名古屋、東京、大阪、札幌で開催されますので、併せてよろしくお願いします。

(中四国地区評議員 中田貴康)



参加者の皆さま

中部地区 床矯正フォーラム名古屋

2024年4月7日(日) ウィンク愛知



4月7日、桜満開のお天気の良い春の日曜日にも関わらず30名以上の参加者にお集まりいただき、第3回の床矯正フォーラム名古屋をウィンク愛知にて開催しました。

アドバイザーである花田前理事長、藤井理事長の挨拶の後、一人目の症例提供者 太田先生から4症例についてお話いただきました。症例ごとに花田先生、藤井先生から模型の測定方法や拡大量の目安、閉鎖型装置の開始時期や使用方法、上唇小帯の対処法など細かくアドバイスをいただきました。

続いて、上野先生からも4症例についてお話いただきました。上顎片側乳犬歯の早期脱落やⅢ級9歳女兒の治療介入が遅れた症例などを提示いただきました。花田先生から側方歯群交換時期での拡大について、装置の設計について詳しく解説いただきました。藤井先生からは、装置の修理や保護者に対して話しておくべきことなど教えていただきました。

今回は、医院で床矯正治療導入して日が浅いお二人の先生に症例提示していただきました。お二人ともスタンダードコースを受講されているため、資料採得がしっかりされており大変有意義な時間となりました。

閉会の挨拶では全国大会について大谷先生からご案内いただき、盛会のうちに終えることができました。

(中部地区評議員 井上 博)



参加者の皆さま



北海道東北地区 床矯正フォーラム仙台

2024年6月23日(日) 仙都會館



多田先生



細川先生



津島先生



2024年6月23日(日)に、北海道東北地区主催の「床矯正フォーラム仙台」を初開催いたしました。昨年、一昨年と過去2回札幌にて「床矯正フォーラム札幌」として開催しておりましたが今回は東北・仙台に舞台を移しての開催となりました。仙台で開業されておられる北海道東北地区評議員の吉田英子先生が中心となり準備し、大盛況の中無事開催することができました。

今回は東日本大震災被災地視察会として震災遺構を訪ねるツアーが企画され、参加者はプラタモリで仙台の案内人として登場された木村浩二氏に伊達政宗侯の城下町として発展した仙台の街や震災遺構について解説していただきながら被災地の痕跡を巡りました。特に荒浜小学校の遺構は被災した当時の痕跡をありのままに残っていて衝撃を受けました。被災した方の体験談を聞き、現地の被災の跡をみると当時の悲しみや復興に邁進した東北の方々の頑張りに感銘を受け、心に残る体験をいたしました。

フォーラムは藤井理事長と花田前理事長がコメンテーターとして、3名の先生にプレゼンターとして参加していただきました。

まず発表の一人目は多田先生による

「前方拡大を意識した矯正治療」

先生はバイオフィUNCTIONALセラピーで良くなることを経験してから床矯正に取り組んだそうで緻密な考察に基づいて治療を進めていて食事を意識した拡大をすることが特徴的でとても勉強になりました。ただし床矯正はなんとなく成長の力で8割は治るので治療には緻密さよりスピードが重要であること。しかし残りの2割の治らない症例は緻密な分析と考察が生きているのでこの考えも大事とアドバイザーからアドバイスがありました。

二人目は細川百合子先生による

「9歳後半からの交叉咬合となかなか前に出ないのに犬歯が見えてきた叢生」

一つ目の症例は9歳後半ですすでに骨格性の反対咬合がみられ床矯正では手を出すべきでないが、結果が不確定でも患者がやれることはやりたいと申し出て実践する場合のみ支援すること。

二つ目は右上の2が口蓋側に後退して萌出する叢生と下顎後退を伴い拡大しても2がなかなか前方に出ない症例で、前に出すことに意識が行きがちであるがまずは側方拡大で前に出すスペースを作ることが重要とアドバイスを受けました。

最後は歯周内科で活躍されている津島克正先生による

「右下5萌出位置異常」

先生は歯周内科と床矯正の相性の良さを強調され症例は右下の5番の位置が悪く抜歯を考えていたところアドバイザーの両名から抜歯せずに牽引して治療していく方法を教わり、その手順を初心者でもわかりやすく紹介していただきました。ワイヤー、ブラケット、ゴムを扱ったことのない先生にはとても参考になる症例でした。

皆様の協力と盛り上がりによりとても楽しく有意義なフォーラムでした。

来年はまた札幌での開催となります。是非来年も皆様に楽しくご参加いただけるよう北海道東北チームは頑張りますのでよろしくお祈りします！

(北海道東北地区評議員 島貫光裕)



第3回 日本床矯正研究会全国大会

第3回全国大会にご参加していただき、誠にありがとうございました。



第3回全国大会大会長の 大谷泰治です。

大会にご参加していただきましたみなさま、誠にありがとうございました。

令和6年5月26日に皇居の畔、東京の一橋講堂にて第3回全国大会が開催されました。

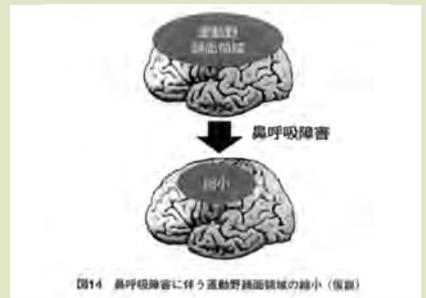
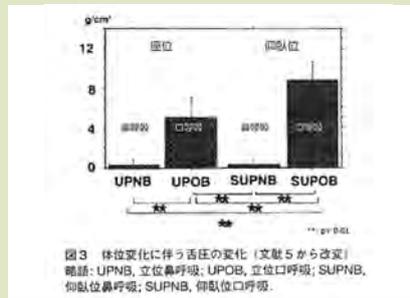
今回のテーマである『**伝える、つなげる、床矯正**』をご紹介したのち、東京医科歯科大学咬合機能矯正学分野 小野卓史教授の招待講演、昼食をはさみ、デンタルフォレストなかむら歯科 中村亜美先生、日本床矯正研究会 花田真也先生のお話を聴講し、後ろ髪を引かれる思いではございましたが、今大会は大盛況のうちに、幕を閉じました。

紙面の関係上、すべてをお伝えすると膨大になってしまいますので、各ご講演の一部をご紹介します。



小野教授のご講演では、鼻呼吸と口呼吸時における舌圧の違いや、鼻呼吸障害による運動野顔面領域の縮小、2018年にjournal of Dental Researchにて最も優れた論文に与えられる「IADR/AADR William J. Gies Award」の受賞論文より「よく咬む」ことがどれだけ良いのか、という明日の臨床に『つながる』お話を『伝えて』いただきました。

講演スライドのお写真はここではお見せすることができませんので、小野教授からご了承いただいております論文より掲載させていただきます。



中村亜美先生には、ご自身のクリニックで実践されている「赤ちゃん歯科」での口育について、簡単で実践しやすい内容を中心に、「3歳までに口腔機能を沢山使う機会を増やすことが大切」ということを改めて『伝えて』いただきました。

会場では、ビジョントレーニングの一例や実際に配られた紙を用いて「しゃくとり虫のお口遊び」を実習形式でご紹介する場面も。

さらに、先生ご自身が学ばれている足育について、靴選びのポイントや食べる時の姿勢、主食と体幹の関係性など、午後の眠気が吹き飛ばような興味深い内容をお話いただきました。



花田真也先生は指導医講演として、「呼吸・嚥下・咀嚼」を中心に、早期に前歯の問題を解決する早期治療の大切さから、大人になって年を重ねた訪問歯科に至るまでのお話を『お伝え』いただきました。まさに赤ちゃんから大人までを網羅する口腔機能の説明は、明確で理解しやすかった

のではないのでしょうか。

また、作成したばかりの「離乳食・幼児食ガイドブック」の解説もしていただきました。

特に、7つの時期区分や口の機能の発達に合わせた名称は、しっかりとて分かり易く、患者様に説明しやすいものとなっています。

自画自賛になるかもしれませんが、今大会は来場されるみなさまが快適に受講いただけるよう、何度も何度もシミュレーションをおこない、不手際が生じないように万時を尽くしたつもりです。

その結果、受講後のアンケート結果で満足度が100%に近い数字をいただきましたことは、大変大きな喜びとなりました。この場をお借りして、ご協力いただいた関係者の方々に、厚く御礼申し上げます。

今大会の内容を『伝えて』・『つなげる』ことができたと感じていただければ幸いです。 (関東地区理事 大谷泰治)

今後の行事セミナー案内

2024年度 床矯正フォーラム

このセミナーでは床矯正に熱心に取り組むことで大きな成果を上げているクリニックの院長やスタッフに床矯正を語っていただきます。提示される症例に対して、参加される皆さんで、楽しくディスカッションしましょう。ミーティング後は懇親会も企画予定です！

大阪

9月29日(日) 10:00~13:00
KITENA新大阪 403号室



東京

12月15日(日) 10:00~13:00
大井町アワーズイン阪急 第1会議室



プレゼンター

アキヨシ歯科 高槻診療所 鄒 天薫
医療法人社団 Oraseed 安達歯科医院 安達 純也

プレゼンター

Ken歯科 中村 健
ミツ境駅前 スマイル歯科 樋田 秀一

会員限定
床矯正フォーラム大阪
2024年度関西地区開催

みんなで考えませんか！
大阪発の
新企画!!

リアルスタッフの生の声を聴く！
床矯正、ここが困ってんねん！
こんな疑問がいたら、
どう答えたらええねん？

床矯正フォーラム大阪
2024年9月29日(日)
10:00~13:00
KITENA新大阪 403号室

アキヨシ歯科高槻診療所 鄒 天薫 先生
安達歯科医院 安達 純也 先生

費用 会員 11,000円
スタッフ 5,500円

JSRO

会員限定
床矯正フォーラム東京
2024年度関東地区開催

2024年12月15日(日)
10:00~13:00

会場 大井町アワーズイン阪急 第1会議室
品川区大井1丁目50-5

費用 会員 11,000円
スタッフ 5,500円

Ken歯科 中村 健 先生
ミツ境駅前 スマイル歯科 樋田 秀一 先生

JSRO

受講料 各日 会員 11,000円 スタッフ 5,500円

2024年 スキルアップセミナー 後期

東京

9月8日(日) 10:00~16:30
AP浜松町



東京

10月27日(日) 10:00~16:30
飯田橋レインボービル



大阪

10月6日(日) 10:00~16:30
新大阪丸ビル別館



大阪

11月17日(日) 10:00~16:30
新大阪丸ビル別館



受講料 各日 33,000円(昼食・資料代込み) 講師 日本床矯正研究会 会長 鈴木設矢

会員限定ホームページのご案内

2023年11月に新設された[当研究会ホームページの会員専用ページ]はご覧いただけましたか？
Facebookグループで最新情報をお届けしていますが、SNSという性質上、情報が流れてしまいます。
そこで、床矯正研究会HP内にある会員専用ページでは、重要な情報をストックしていつでも見れるようにしております。
例えば、アーカイブ動画視聴や様々な資料のダウンロードが可能です。
ご利用の際には、最初にアカウント登録が必要になりますので、QRコードを読み取りご登録くださいませ。



JSROメールマガジン配信について

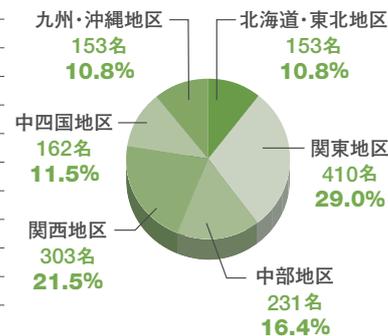
研究会は法人化し、一般社団法人日本床矯正研究会となりました。
そこで、新たな取り組みとして、毎月一回メールマガジンを発行し、会員の先生方に最新の情報を提供していきますので、どうぞ毎月ご愛読ください。
理事・評議員の先生方による臨床&経営トピックスやオススメの書籍、セミナーのご案内、歯科の豆知識等の情報を配信しております。



会員動静

総会員数 (2024年7月1日現在) 総会員数 1412名

北海道・東北地区	関東地区	中部地区	関西地区	中四国地区	九州・沖縄地区
北海道 51	茨城県 15	新潟県 17	滋賀県 16	鳥取県 11	福岡県 80
青森県 19	栃木県 19	富山県 11	京都府 30	島根県 5	佐賀県 8
岩手県 13	群馬県 25	石川県 6	大阪府 153	岡山県 38	長崎県 14
宮城県 36	埼玉県 63	福井県 10	兵庫県 75	広島県 40	熊本県 17
秋田県 5	千葉県 44	山梨県 4	奈良県 17	山口県 15	大分県 16
山形県 13	東京都 162	長野県 17	和歌山県 12	徳島県 9	宮崎県 6
福島県 16	神奈川県 82	岐阜県 17		香川県 16	鹿児島県 8
		静岡県 24		愛媛県 20	沖縄県 4
		愛知県 102		高知県 8	
		三重県 23			



新規入会者 (2024年2月1日~2024年6月30日)

【北海道】詫摩 厚太 【福島県】遠藤歯科医院 遠藤 茂樹/佐藤歯科医院 佐藤 健仁/なみ歯科クリニック 千島 波穂
 【栃木県】おかもとこどもおとな歯科 岡本 愛実 【埼玉県】東小金井歯科CLINIC 大岡 俊毅/おかだ歯科医院 岡田 恵理子/浦和くすのき歯科 前納 允/柳原歯科医院 大槻 智子/らいおん歯科 吾妻 由規 【千葉県】医療法人社団well beingピア・デンタルクリニック 瀧 宏之/信愛歯科医院 高本 理敏
 【東京都】医療法人社団慶仲会 服部歯科医院 服部 善崇/みなみ台なないろ歯科 石倉 亜利/菊竹歯科医院 久保田 知子/富山歯科クリニック 山脇 恵那/東京サザンガーデンさいとう歯科 齋藤 康行/中村歯科 渡辺 紫穂/下高井戸歯科室 櫻井 哲朗/ホワイトプラザ歯科 関山 尚克
 【神奈川県】みんなの歯科クリニック 延本 慎厚 【長野県】城歯科クリニック 松村 真太郎 【岐阜県】医療法人 回生会 カリス歯科クリニック 田口 潤一郎/益田歯科医院 益田 英明/中島歯科医院 三島 和美 【愛知県】緑あおやま歯科口腔機能クリニック 武藤 昭紀/大矢歯科 大矢 謙吉/織田 祥太
 【三重県】高崎 ちぐさ/医療法人鸞翔会ブルーチンノ歯科・矯正歯科四日市 宮本 崇史 【滋賀県】かながわ歯科医院 神奈川 勝
 【京都府】よしおか歯科 吉岡 靖介 【大阪府】医療法人あらくら会 朝倉歯科医院 出口 裕子/石野歯科医院 石野 貴嗣/松永歯科医院 松永 泰明/勝間歯科医院 勝間 有香/北川歯科医院 北川 祐介/めぐみ歯科クリニック 飯塚 萌/医療法人佑絢会 C&Cナカデンタルクリニック 津島 康司/しょうえい歯科 北野 尚栄/玉造歯科クリニック 西浦 健太郎 【兵庫県】あかお歯科医院 赤尾 聡一/医療法人社団晃誠会あおぞらデンタルクリニック 辻 卓朗/丸橋歯科医院 丸橋 祥人 【奈良県】ひらかわファミリー歯科 平川 寛 【鳥取県】鳥取医療生協せいきょう歯科クリニック 中田 幸雄/きまち歯科クリニック 海海 丹佳子 【島根県】おむら歯科医院 小村 直美/高木歯科医院 清水 佐知子 【岡山県】みらい歯科 皆木 祥伴
 【広島県】田中デンタルクリニック 田中 靖洋/きよはら歯科クリニック 神人 大輔 【福岡県】なかとみ歯科医院 中富 貴大/まつうら歯科 田隅 怜/のなか歯科 野中 紀宏/医療法人康歯会 三善歯科医院 三善 康大/医療法人徳和会 ひまわり歯科 江角 恵理子/まつだミリー歯科 松田 卓也
 【佐賀県】しらみず歯科クリニック 白水 一崇 【大分県】医療法人きし歯科ファミリークリニック 岸 岳宏 (敬称略) ※勤務医の会員様は氏名のみになっています。

2024年前期 日本床矯正研究会の活動実績 (2024年2月1日~2024年6月30日)

セミナー	オンライン症例検討会	会議 (zoom)
2024年3月24日 (日) 床矯正フォーラム広島	2024年2月26日 (月) 第34回	2024年4月2日 理事会
2024年4月7日 (日) 床矯正フォーラム名古屋	2024年3月21日 (木) 第35回	2024年4月9日 定時評議員会
2024年5月12日 (日) スキルアップセミナー大阪	2024年4月18日 (木) 第36回	2024年4月17日 理事会
2024年5月26日 (日) 第3回日本床矯正研究会全国大会	2024年5月30日 (木) 第37回	
2024年6月9日 (日) スキルアップセミナー東京	2024年6月27日 (木) 第38回	
2024年6月23日 (日) 床矯正フォーラム仙台		
2024年6月30日 (日) 床矯正ベーシックセミナー東京		



事務局より

炎暑厳しい折、皆様いかがお過ごしでしょうか。
 一般社団法人日本床矯正研究会の設立から4年半が経ち、おかげさまで、総会員数が1400名を超えてまいりました。
 より一層のサービス向上を目指し、事務局一同誠心誠意努める所存でございます。
 なにとぞ今後とも倍旧のご支援のほどお願い申し上げます。

一般社団法人 日本床矯正研究会 会報 2024年8月7日発行 2021年第1号 通巻第9号
 一般社団法人日本床矯正研究会は法人格を有する歯科医師の団体です

一般社団法人 日本床矯正研究会

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町3-14 市ヶ谷ガーデンテラス 2F

FAX: 03-4496-4418 メールアドレス: info@jsro.jp HP: https://jsro.jp/

